

銀行

1. 評価対象企業（12 社）

【主要銀行】（5 社）

三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラストグループ（注）、三井住友フィナンシャルグループ、みずほフィナンシャルグループ

【地方銀行】（5 社）

しずおかフィナンシャルグループ、めぶきフィナンシャルグループ、コンコルディア・フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ

【専門銀行】（2 社）

ゆうちょ銀行、セブン銀行

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）三井住友トラスト・ホールディングスが商号を変更した（2024 年 10 月）。

2. 評価方法等

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	7	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	12
計		19	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは 21 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、各評価分野の項目数、内容、配点を全般的に見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 77.8 点（昨年度同点）、総合評価点の標準偏差は、4.0 点（昨年度 4.8 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 78%（昨年度 77%）、説明会等が 79%（昨年度 81%）、フェア・ディスクロージャーが 85%（昨年度同率）、ESG 関連が 76%（昨年度同率）、自主的情報開示が 75%（昨年度 72%）となった。

③ 評価項目（全 19 項目）について見ると、次の 7 項目（経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目 (a)、説明会等の中の 2 項目 ((b) (c))、フェア・ディスクロージャーの 2 項目 ((d) (e))、ESG 関連の中の 2 項目（下記④の(e) (f)）が、平均得点率で 80%以上となり、高水準であった。なお、(b)は、本年度の新設項目である。

- (a) 「IR 部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか」(平均得点率 80% [昨年度同率]) (得点率 (評価点/配点<以下省略>) : 70%台 5 社・80%台 7 社)
- (b) 「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか」(平均得点率 81%) (得点率 : 70%台 4 社・80%台 7 社・90%台 1 社)
- (c) 「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか」(平均得点率 84% [昨年度 78%]) (得点率 : 全社 80%台)
- (d) 「経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率 84% [昨年度 87%]) (得点率 : 70%台 1 社・80%台 10 社・90%台 1 社)
- (e) 「英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか」(平均得点率 87% [昨年度 84%]) (得点率 : 70%台 2 社・80%台 5 社・90%台 5 社)

④ ESG 関連の 7 項目は、次のとおりとなった。なお、人的資本に関する項目 (g) は、平均得点率が 70%となり、全 19 項目の中で最も低かった（本年度、項目内容を見直した。）。

- (a) 「資本政策（資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む）、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率 76% [昨年度 77%]) (得点率 : 60%台 2 社・70%台 8 社・80%台 2 社)
- (b) 「中・長期経営計画（市場目線に即した ROE など目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率 76% [昨年度同率]) (得点率 : 60%台 3 社・70%台 5 社・80%台 4 社)
- (c) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 78% [昨年度 82%]) (得点率 : 70%台 7 社・80%台 5 社)
- (d) 「社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか」(平均得点率 76% [昨年度 71%]) (得点率 : 50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 6 社)
- (e) 「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 80% [昨年度 82%]) (得点率 : 60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 4 社・90%台 3 社)
- (f) 「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 81% [昨年度 80%]) (得点率 : 70%台 3 社・80%台 9 社)
- (g) 「人的資本に関する情報開示は、経営戦略とリンクする形で十分になされていますか。また、人的資本に関する投資の成果について開示がされていますか」(平均得点率 70% [昨年度 76%]) (得点率 : 60%台 3 社・70%台 9 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井住友フィナンシャルグループ（ディスクロージャー優良企業（5 回目）、

総合評価点 85.4 点 [昨年度比 +2.0 点]、昨年度第 2 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）86%）、説明会等（84%）、ESG 関連（85%）、自主的情報開示（87%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（88%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて順位を上げた。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能・姿勢」が共に最も高い評価となり、「IR の基本スタンス」も第 2 位となった。これらに関連して、CEO 就任後、早期に市場との対話の機会を持ち、投資家の問題意識を把握しようとする IR 姿勢を評価する声のほか、企業価値向上に対する経営トップの積極性や、中長期的な利益目線による目標設定などを評価する声が寄せられた。IR 部門については、情報蓄積が十分な上、投資家の期待や懸念を経営陣と共有し、対応しようとする姿勢があるとの声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示（連・短の両決算）」の4項目のうち、「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」および「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていること」が共に最も高い評価となった。他の2項目もいずれも80%以上の得点率となった。また、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」も評価され、同得点第2位となった。これらに関連して、決算説明会資料等は業界の中でも優れており、説明も十分かつ簡潔明瞭であるとの声があったほか、計数の羅列ではなく、部門毎のビジネス状況や、伸びが把握しやすいよう工夫されていること、インタビュー編がわかりやすいことを評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「英文による情報提供」が同得点第1位となり、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第6位）は、昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、英文開示が充実していること、ウェブサイトでの決算説明会の動画・音声配信に主な質疑応答まで含まれており、透明性・公平性が高いこと、スクリプト付資料の開示があることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、7項目全てで、最も高い評価（同得点第1位を含む。）となった。特に、「コーポレート・ガバナンス」の社外取締役の関与に関する項目については、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これに関連して、社外取締役によるパネルディスカッションにおいて、当社の課題に対する説明が率直であったことを評価する声があった。そのほかに、サステナビリティ説明会が充実しているとの声や、社会的課題解決を従業員全員参加型で取り組んでいることを開示しており共感できるとの声も寄せられた。なお、人的資本と経営戦略との関連や、人的投資の効果に関して、さらなる開示を期待する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等」について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」が最も高い評価となり、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」もトップと僅差の第2位となった。充実していたイベントとして、IR Day、新 CEO による投資家説明会を挙げる声が多く、また、統合報告書の内容を評価する声も多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 コンコルディア・フィナンシャルグループ（総合評価点 81.5 点〔昨年度比+1.1 点〕、昨年度第5位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（88%）、経営陣の IR 姿勢等（84%）、説明会等（81%）が第2位、ESG 関連が同得点第2位（80%）、自主的情報開示が第5位（78%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて順位が上がった結果、総合順位で昨年度比3ランク、一昨年度比6ランクのアップとなった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR の基本スタンス」が最も高い評価となり、「経営陣の IR 姿勢」（第2位）も高く評価された。「IR 部門の機能・姿勢」（同得点第4位）も80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップの企業価値向上へのコミットメントが高く、また、財務担当取締役や IR 担当者も課題などについて率直に説明するなど中長期投資をする上での信頼感があるとの声や、最近の開示の改善後も、高水準の説明を維持しようとする姿勢は評価できるとの声が寄せられた。IR 部門については、人員の質・量ともに充実しており、IR 担当者と十分な議論ができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が最も高い評価となり、「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」も同得点第2位となった。そのほかの3項目も、それぞれ昨年に比べ順位を上げ、これらの結果、この分野において第2位（昨年度第3位）となった。これらに関連して、説明会や決算説明資料等はいずれも優れており、継続的に丁寧な説明がされているとの声が寄せられた。また、企業価値向上の説明など業界をリードする面も多いが、他行の開示向上も著しいので、成長戦略の説明などを今まで以上に積極的に行ってほしいとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、ウェブサイト上で資料や質疑応答を詳細に開示しており公平性が高いとの声が寄せられた。「英文による情報提供」（同得点第6位）も85%以上の得点率となり、これらの結果、この分野において同得点第1位（昨年度同得点第3位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンス」の中の、社外取締役の関与に関する項目が同得点第1位となった。これに関連して、IR Day での社外取締役の質疑応答を評価する声があった。また、「人的資本に関

する情報開示」(同得点第3位)は、トップと僅差であった。これに関連して、人的資本投資のKPIの開示を評価する声があった。そのほかの5項目についても、いずれも80%以上の得点率であり、これらの結果、この分野において同得点第2位(昨年度第5位)となった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率が5ポイント以上改善した。充実していたイベントとして、IR Dayが挙げられ、その中でも市場部門説明会を評価する声が多かった。また、統合報告書におけるCEOメッセージ、企業価値向上や長期的課題の説明内容を評価する声もあった。

第3位 三菱UFJフィナンシャル・グループ (総合評価点81.0点〔昨年度比-3.9点、昨年度第1位〕)

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第2位(86%)、**ESG関連**が同得点第2位(80%)、**経営陣のIR姿勢等**が第3位(80%)、**説明会等**が同得点第3位(81%)、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第9位(82%)となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野において、得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」および「IR部門の機能・姿勢」が、昨年度に比べ得点率を下げ、共に第3位となった。これらに関連して、経営トップには、ROE向上やカルチャー改革に対する強い意志が感じられ、そのIR姿勢は評価できるとの声があった。一方で、投資家のニーズや期待に十分に答えていないとの声もあった。IR部門については、人員、情報蓄積とも十分であり、投資家ときめ細かな対話ができるとの声があった。「IRの基本スタンス」(第12位(昨年度同得点第1位))は、得点率が大きく下がった。これに関連して、テーマ別のミーティングによる情報提供を評価する声が寄せられたが、不祥事に関する対応や説明が十分ではないとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)」が最も高い評価となり、「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていること」も同得点第1位となった。「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」は、同得点第2位となった。一方、「事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」は、同得点第10位であった。これらに関連して、説明会や決算説明資料等の開示内容は十分で、丁寧な説明がされているとの声があった一方、事業セグメント別データの継続性の向上を求める声もあった。なお、一過性特殊要因について、より丁寧な開示を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「英文による情報提供」が同得点第1位となった。一方、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(第12位)は、昨年度に比べ、得点率が下がった。これに関連して、買収関連の事前報道や行政処分関連に関する情報開示には課題があるとの声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「環境・社会に関する情報開示」の2項目のうち、環境に関する項目が同得点第1位となり、社会に関する項目も同得点第3位となった。これらに関連して、気候変動の取組みの開示は充実しているとの声が寄せられた。一方、「資本政策、株主還元策の開示」(第9位)および「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」(同得点第4位)はいずれも、昨年度に比べ得点率を大きく下げた。これらに関連して、株主還元方針やその運用について十分な説明を求める声や、不祥事を受けてのコーポレート・ガバナンスの実効性に関する開示が不十分であるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に高い評価となった。充実していたイベントとして、Investors Dayを挙げる声が多く、その中でも各事業の説明を評価する声があった。そのほか、社外取締役とのスモールミーティングを挙げる声もあった。統合報告書については、その内容を評価する声が多く、CEO・CFOメッセージや、環境・社会課題の解決、カルチャー改革・人材戦略の内容が充実しているとの声が寄せられた。

(注) なお、第3位の企業より、今後の「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」の評価に際して、本年度の評価を勘案することについて、辞退する申し出があった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点 25点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における 評価項目5 (配点 25点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目2 (配点 5点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目7 (配点 33点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2 (配点 12点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8316 三井住友フィナンシャルグループ	85.4	21.5	1	21.0	1	4.4	1	28.1	1	10.4	1	2
2	7186 コンコルディア・フィナンシャルグループ	81.5	21.1	2	20.3	2	4.4	1	26.4	2	9.3	5	5
3	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	81.0	20.0	3	20.2	3	4.1	9	26.4	2	10.3	2	1
4	8309 三井住友トラストグループ	79.5	19.5	7	20.0	5	4.4	1	26.1	5	9.5	4	3
5	8411 みずほフィナンシャルグループ	79.3	19.4	8	19.4	8	4.3	4	26.4	2	9.8	3	4
6	8331 千葉銀行	78.7	19.6	6	20.2	3	4.3	4	25.7	6	8.9	6	6
7	8308 りそなホールディングス	76.3	18.9	10	19.4	8	4.1	9	25.2	7	8.7	8	7
8	5831 しずおかフィナンシャルグループ	75.8	19.3	9	19.2	11	4.2	8	24.9	8	8.2	9	8
9	7182 ゆうちょ銀行	75.4	19.9	4	19.3	10	4.3	4	23.0	11	8.9	6	11
10	7167 めざきフィナンシャルグループ	75.1	18.9	10	19.5	7	4.1	9	24.4	9	8.2	9	12
11	8410 セブン銀行	74.9	19.7	5	19.7	6	4.3	4	23.4	10	7.8	11	10
12	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	70.2	17.4	12	19.2	11	3.9	12	22.5	12	7.2	12	13
	評価対象企業評価平均点	77.80	19.60		19.80		4.24		25.22		8.94		

2024年度評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか。	5
②事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか。	5
③事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	5
④主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	3
(2)英文による情報提供	
・英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（33点）	配点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む）、株主還元策が十分に説明されていますか。	7
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（市場目線に即したROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(3)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
②社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか。	4
(4)環境・社会に関する情報開示	
①環境に関する情報、定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	4
②社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	4
(5)人的資本に関する情報開示	
・人的資本に関する情報開示は、経営戦略とリンクする形で十分になされていますか。また、人的資本に関する投資の成果について開示がされていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施していますか。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。[過去1年間を目安に評価]【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	6
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えられていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	6

銀行専門部会委員

部 会 長	高宮 健	野村證券
部会長代理	鮫島 豊喜	SBI 証券
	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
	松野 真央樹	みずほ証券
	簗谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（21名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ 証券
大野 剛	丸三証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
坂本 昂平	大和証券	柊 宏二	QUICK
佐藤 雅彦	SMBC 日興証券	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	松田 健	大和証券
鮫島 豊喜	SBI 証券	松野 真央樹	みずほ証券
高宮 健	野村證券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
田村 晋一	岡三証券	矢野 貴裕	JP モルガン証券
勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント	簗谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。